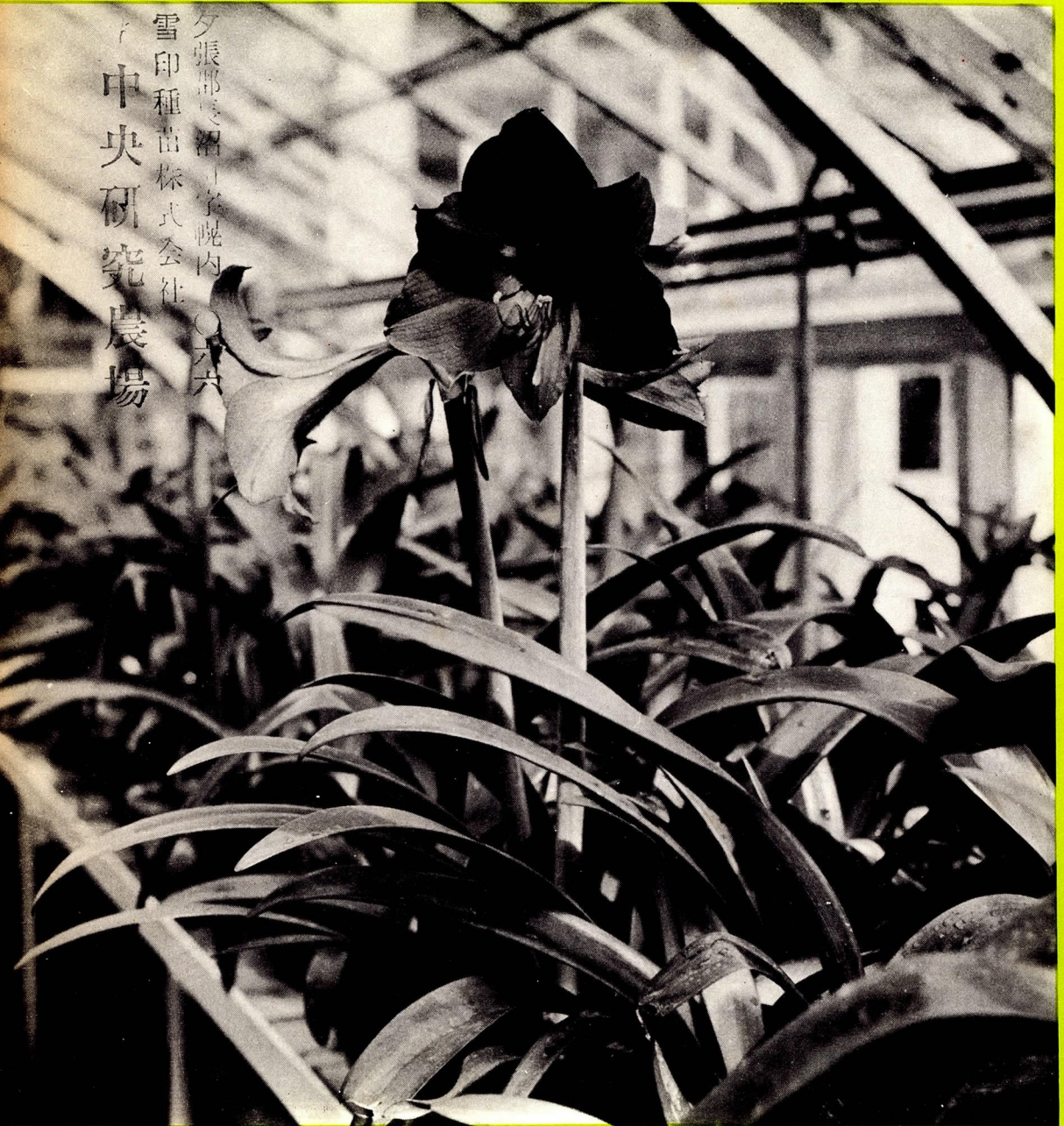


牧草園藝



夕張郡長沼町字梔内 〇六六
雪印種苗株式會社
中央研究農場

雪印種苗株式會社

第11回 北海道酪農技術研究集會要録

はじめに

全道各地から優秀酪農家、農業改良普及員、専門技術員が去る2月9・10日の2日間、道と北海道乳牛経済検定組合連合会の主催で酪農研修センターにおいて一同に会し飼料作物専門部会、総合部会を設け全道各支庁からの優秀な実践酪農家が課題提供者となって熱心に体験発表を行ない、質疑応答を重ねより一層の酪農技術の研修に努める会をもちました。日本、北海道をとりまく酪農の情勢も40年6月の酪農振興法の大幅改正以後自給飼料生産性の向上が都道府県酪農近代化計画の中で強く望まれ、又一方不足払制度実施後の昨年は当初期待された程牛乳生産がのびずこれを打開する一策でこの研修会が開かれました。以下概要をかんたんに述べてご参考に供します。

1 デントコーン多収獲のコツ

北海道においてはデントコーンは乾牧草・根菜類・グラスサイレージ等と共に最も大切な越冬貯蔵飼料であり、サイレージとした時の栄養収量を最大にすることがきわめて大切である。このため登熟が早く完全に実がつく一代雑種の適品種導入を再認識すべきである。エローデント等に比べF₂のジャイアンツ等は一般に特性がよく理解されていないためかまだ栽培技術が充分ではない。

F₁は生育後期において旺盛な生育を示すので肥切れをおこさない様十分な施肥が望まれる。このため7月上・中旬の硫安20kg/10aの追肥は非常に有効である。

栽植密度は晩生種（ジャイアンツ）では4,000本、中生種（複交5・8号・交6・504号）は5,000本、早生種では5,500本位、畦幅60～70cm×株間35～40cm1株1本立が標準。

多肥性作物であるので10²当り7～8²の収量をあげるには基肥は堆肥2²、N9～11kg、P₂O₅10～13kg、K₂O7～10kg（いずれも成分量）位を施すのが望ましい。

デントコーンの部 優良事例

留萌支庁 苫前郡苫前町字岩見 丹羽正己氏（37）
（岩見乳牛経済検定組合所属）

乳牛飼養経験年数：20年 実稼労働力：2・3人						
経営用地	耕	田	普通畑	牧草地	その他飼料畑	合計
	地	260 ²	40 ²	350 ²	100 ²	750 ²
乳牛飼養頭数：成牛7頭 仔牛4頭 表土の深さ（作土）24cm 酸度：PH6.3 土性：植壊土 土地生産力（10a当収量）えん麦10俵，馬鈴薯60俵 作付品種名：エローデントコーン 栽植密度（10a当株数＝3466本）株間80cm×畦幅60cm 播種日：昭和41年5月10日 収穫日：同9月28日 10 ² 当播種量：2kg						
施肥量		堆肥	硫安	過石	塩加	
kg/10a		4,000	28	40	20	
収量	総重量		穀穂			
	デントコーン	10,116kg	本数	重量	熟度	
量	ボンキン	716kg	4,266本	2,453kg	黄熟期	
栽培上特に留意した点 ①堆肥の大量投入による地力の培養 ②深耕 ③株立本数を確保するため砕土を充分行なった。 その他自給飼料の10 ² 当り収量は牧草6～7 ² 、家畜ビート9 ² である。						



2 家畜ビートはペーパーポット移植栽培で増収を

根菜類はたしかに乳牛の生理上非常に好ましい多汁質飼料であるが反面労力がかかる上生産費もデントコーンの2倍位かかる。この点からペーパーポットの利用で、労力の分散をはかり（間引時の労働ピークをずらす）生育日数の延長、病害の回避（立枯れ病等）で増収に努め1FU当りの生産費を下げる必要がある。

多肥肥培管理の事例を理解し又褐斑病、ヨトウ虫等の防除にも気を配るべきである。

品種としては貯蔵性収量の点からシュガーマンゴールドが望ましい。又本来地力の低いところでは個体重よりも株数でこなすことが望まれる。栽植密度としては、直播では7,000～9,000本、移植栽培では5,000～6,000本が標準である。管理上の注意として忘れてならないことに葉数が20枚程度の時少しばかり葉をいためる心配があっても、中耕除草を励行すべきである。15～20葉期に最終中耕を葉をいためずできると申し分ない。収穫期の省力化のためデンマーク式収穫法をぜひ励行していただきたい。

家畜ビートの部 優良事例

石狩支庁 江別市対雁 関 信行氏（46）
（対雁乳牛経済検定組合所属）

乳牛飼養経験年数：25年 実稼労働力：2.5人							
経営用地	耕	田	普通畑	牧草地	その他飼料畑	合計	造成草地
	地	60 ²	—	400 ²	345 ²	805 ²	360 ²
乳牛飼養頭数：成牛11頭 育成牛4頭 仔牛5頭 表土の深さ：30cm 酸度：PH6.5 土性：植壊土 土地生産力（10a当収量）えん麦9俵，馬鈴薯50俵 作付品種名：シュガーマンゴールド 栽植密度（10a当株数＝6,240本）株間27cm×畦幅60cm 移植日：昭和41年5月15日 収穫日：同10月12日 作付面積：45 ² （ペーパーポット移植栽培） 10 ² 当り播種量：0.5kg							
施肥量		4月10	5月1日	5月3日	5月12日		6月5日
(10a当)		牛尿 20石	炭カル 300kg	石灰窒素 30kg	ビート化成80kg 溶糞60kg 堆肥4,000kg 塩加20kg		牛尿 10石
収量		総重	根重	土砂割合	土砂引10a当収量		
(10a当)		22,273kg	20,249kg	1.5%	19,947kg		
栽培上特に留意した点 ①土地条件の整備 完熟堆肥、牛尿の施用、深耕の実施、酸度矯正。PH 6.5以上の保持、施肥量の適正に努めた。 ②生育期間150日以上の確保のため移植栽培とし最終的には本圃に移植後180日の生育日数を与えて収穫した。							